



公益財団法人
日本セーリング連盟

JSAFレース委員会
(外洋小委員会)

外洋レース主催での 注意事項



2015年版



Part 1.

* クラス規則の変更での注意

1. IRC規則の変更
2. ORC規則の変更
3. IRC,ORCのダブルエントリーでの注意

Part 2.

* JSAF 外洋特別規定(安全)について

Part 3.

* その他の 注意事項

1. 順位・得点での注意
2. VHF 使用に関して
3. 複合スコアリングに関して

Part 1.

* クラス規則の変更での注意

1. 大会公示 (Notice of Race)の記載

RRS規則 付則K. レース公示ガイド1. 5 参照

2. 帆走指示書 (Sailing Instruction)への公示での 変更箇所 の記載

RRS規則 付則L. 帆走指示書ガイド1. 6 参照

* IRCクラス規則の変更での注意

1. 大会公示 (Notice of Race)の記載

IRC規則 11. では 規則の変更は公示のみ有効です。

IRCLレース主催者のためのガイド2014 参照 (資料 1.)

2. ワンデザインクラス規則の変更

X35協会では IRCLレースでのクラス規則の変更が可能です。

X35クラス規則変更についての案内 参照 (資料 2.)

* IRCクラス規則の 主な変更箇所

1. IRC規則22.4 Crew Number/Weight (クルーナンバー／重量)

証書記載のクルー人数 × 85kgのクルー重量を超えてはならない。
(2013年から 規則が変更になりました。)

2. IRC規則21.1.5 セールの制限

連続した日で行われるレガッタにおいては
検討する価値があるでしょう。

3. IRC規則11 スピネーカーの搭載枚数の追加

適用規則、 日本セーリング連盟IRC規程を公示に記載
又、ISAF スペシャルレギュレーションカテゴリー3 もしくは
それ以上で行われる場合のみです。

* IRCクラス規則の 主な注意箇所

1. IRC証書の有効性（証書年度）

日本での証書の有効期限は 12月31日までです。

JSAF年度と異なりますのでご注意ください。

2. 広告

レース公示で指定されない場合

IRCパートCが適用され 広告は許可されます。

3. RRS規則 52（人力）

IRC規則15.1で、RRS 52、人力、は完全に削除されています。

詳細は IRCLレース主催者の為のガイドを ご参照下さい。

* ORCクラス規則の変更での注意箇所

1. クルー体重制限を変更、解除する場合

レース公示や帆走指示書にて明確に変更、新たに定める制限を記載しなければなりません。変更、解除はレース主催者の意図と責任で行われ、クルー重量によって艇のパフォーマンスは変化することを理解した上で行ってください。

2. セールの搭載枚数

レース中のセール搭載可能枚数は、GPH 値などに応じて制限されています。制限はレースの実施要綱もしくは帆走指示書によってレース独自の変更が可能です。

Part 2.

* JSAF 外洋特別規定について

1. JSAF外洋特別規定の基本

JSAF外洋特別規定の成り立ち

JSAF外洋特別規定の概要

2. JSAF外洋特別規定の運用

3. レース主催者の注意事項

JSAF外洋特別規定2014－2015 (資料 6.)

資料入手は <http://www.jsaf-anzen.jp/>

1.外洋特別規定の基本

JSAF外洋特別規定の成り立ち

原文:ISAF が定めるOffshore Special Regulations が基本

国際セーリング連盟 (ISAF) が定めるOffshore Special Regulations の邦訳が JSAF 外洋特別規定である。ただし、以下の2 点に当てはまる項目に関して日本独自の特記事項として変更している。

- a. 日本国内法に適合しない項目。
- b. 日本国内において極めて入手、対応困難な項目。

適用期間:4月1日～翌々年3月31日まで。2年毎に改訂

ISAF-OSR は、1月1日～翌年12月31日までの2年間が適用期間。

西暦偶数年に施行。JSAF 外洋特別規定は、ISAF-OSR の3ヶ月遅れで運用。

採用カテゴリー:モノハル カテゴリー3、4、5、6のみ

ISAF-OSR は、モノハルとマルチハルの2種、カテゴリー0～6までの7段階。

JSAF 外洋特別規定2012-2013 は、モノハル1種、カテゴリー3～6までの4段階。

1.JSAF外洋特別規定の基本

JSAF外洋特別規定の概要

目的:レースを行う際の、最低限の装備と訓練の規準である。

最低限の設備を共通化することにより、ある程度の安全を確保しつつレースを公平に行うためにある。(外洋特別規定1.01 参照)

責任:艇と乗員の安全確保の責任は各艇(艇の責任者)にある。

目的にあるように外洋特別規定は最低基準であって、安全を担保する物ではない。(外洋特別規定1.02 参照)

適合:規定に従っているかを確認する権利はレース主催者にある。

- ・レース参加するに当たり、規定に適合させる責任は各艇にある。
- ・参加艇が規定に従っているかどうかを確認する権利は、レース主催者にある。(外洋特別規定2.02 参照)
- ・確認方法には、申告書などを用いた申告やレース主催者による実艇検査などがある。
- ・JSAFは個々の艇に認可を与えたり、個々の艇の参加資格の合否を判断しない。

2.JSAF外洋特別規定の運用

1. 積極的かつ適切に採用する

- a). JSAF外洋特別規定の基礎はISAFが定めた国際的規定である。
- b). レースの公平性を保ちながらの事故防止、事故被害拡大の抑止、事故後の対応など参加者や主催者にとって便益性が高い。
- c). 採用時には第2章記載のレース条件に適したカテゴリーに注意。

2. レース毎の確認の実施

参加者への告知: レース公示に適用規則、適用カテゴリーを記載。

提出書類の準備: それぞれのレースに適した申告書(標準タイプ含む)を用意。

確認-1: 申告書を受け取り、内容を確認。

確認-2: 必要に応じて実艇のインスペクションを行う。

【point】 少なくとも申告書の提出による確認を行うことを推奨する。

3.レース主催者の注意事項-1

参加者への告知:レース公示への記載例

a). 規則の適用

→適用規則の項に「JSAF外洋特別規定2014-2015」

b).適用カテゴリーの記載

→参加資格の項などに「JSAF外洋特別規定カテゴリー3に規定を満たしていること。」

c).申告書の提出 →参加申込の項または提出書類の項などに
カテゴリー3の場合:

「JSAF外洋特別規定カテゴリー3の申告書<標準タイプ>を提出。」

複数クラスで適用カテゴリーが異なる場合:

「参加資格を満たすJSAF外洋特別規定申告書<標準タイプ>を提出。」

申告書が標準タイプではなく当該レース専用を用いる場合:

「当該レースのJSAF外洋特別規定申告書を提出。」

【point】適用カテゴリーの項で「カテゴリー4以上」などの「~以上」という表現は行わない。

3.レース主催者の注意事項-2

提出書類の準備:レースに適応した申告書の用意

標準タイプの申告書は適用カテゴリーの全項目を網羅していない。各レースにて特に確認しておくべき点などを抽出した申告書を用意することが望ましい。

確認-1:申告書の内容を確認

参加者から提出された申告書の内容を確認。未記入や不備があれば事前に参加者に指摘し、適用カテゴリーに合致しているという有効な申告書を再提出してもらう必要が有る。

【point】提出された書類は内容を確認するためにある！

申告書は受け取ることが目的ではない。参加者は提出すれば良いというわけではない。内容を確認し適用カテゴリーに合致しているかどうかを判断するためにある。

確認-2:インスペクションの実施

可能な限り、実艇にてインスペクションを実施する。

Part 3.

* 順位・得点での注意

1. RRS付則A

ハンディキャップ方式またはレーティング方式が採用されます。
公示、SI等で付則Aを変更しない場合は
A3, A7に従って順位を決定します。

2. 修正時間(秒)が 同じ場合

RRS付則A7を変更しない場合を考えて置く必要がある。

3. 暫定成績の速やかな開示

* ハンディキャップ方式では 各艇の所要時間に修正係数を
掛けて出た数値(修正時間)の大小により順位を決める。

* 選手が自艇、他艇の所要時間、修正係数を掛け簡単に確認
できる成績表が望ましく、また間違いを選手が発見できるよ
うな表示が望ましいと思われれます。

* VHF使用に関して

1. JSAF外洋特別規定では

カテゴリー4以上では ハンディーVHFの搭載があります。
OSCを救う為の手段として有効に活用しましょう。

2. VHF使用での注意事項

リコール等を VHFでコールする場合。
通信状況等で聞き取れない等
艇からの救済の要求に対処する為に。

帆走指示書の記載 例

“救済の要求の根拠とならない”の記述が必要です。

(RRS 付則 L 11.6 参照)

* 複合スコアリングに関して

ヨットクラブでのレースではパーソナルパフォーマンスハンディキャップ (PHRF)とJSAF公認 (IRC、ORC)の証書を有している艇について、可能であれば必ず

複合スコアリングを採用も考えて下さい。

このポリシーの基本的考えは、パーソナルハンディキャップがレース経験の浅いセーラーにレースに気軽に参加してもらい、より経験のあるセーラーと同じレースでその実力を比べる機会を得てもらおうと同時に、経験あるセーラーが離れていかないように、平行してJSAF公認クラスのレース結果を提供するというものです。

フリートをIRCクラス、ORCクラスとローカルクラスに分けるよりも、クラブはIRJSAF公認クラスとローカルハンディキャップの複合スコアリングを採用することが推奨されます。